

東京学芸大学附属図書館概要



2024

特色

P.1

- ・1. 東京学芸大学附属図書館の特色
- ・2. 東京学芸大学附属図書館の使命と目標
- ・3. 最近の活動
- ・4. 加盟組織

利用案内

P.10

- ・1. 開館時間
- ・2. 各種サービス時間
- ・3. 貸出冊数・期間
- ・4. インターネットサービス

組織

P.11

- ・1. 組織
- ・2. 職員数
- ・3. 歴代附属図書館長
- ・4. 学術情報会議名簿

所蔵資料

P.13

- ・1. 特別コレクション
- ・2. 電子ジャーナル
- ・3. 電子ブック
- ・4. オンラインデータベース
- ・5. CD-ROM, DVD-ROM
- ・6. デジタル教科書
- ・7. 自館作成デジタルコンテンツ

施設・設備

P.18

- ・1. 図書館施設
- ・2. 主要設備

統計

P.20

- ・1. 主たる利用対象者数
- ・2. 蔵書
- ・3. 利用状況
- ・4. 相互協力
- ・5. 市民への公開
- ・6. 機関リポジトリ
- ・7. デジタルアーカイブ 登録コンテンツ数
- ・8. 資料費等予算

広報

P.24

- ・1. 出版物
- ・2. ウェブサイト

沿革

P.25

平面図

P.31

特 色

1. 東京学芸大学附属図書館の特色

本学は教育系大学として長い伝統と実績を有し、教育に関する研究、教員養成に関する教育・研究の中核的な役割を果たしてきた。附属図書館は、それらに資するため、教員養成や教育に関する資料の体系的な収集に努め、約91万冊の図書、約1万2千タイトルの雑誌等による蔵書を構築してきた。特に、往来物や明治期初年以来の初等教育の教科書等を含む「望月文庫」をはじめ、近世頃から近代にかけての絵双六を集めた「双六コレクション」など、貴重な教育関係資料のコレクションの充実を図ってきた。我が国の戦後の小学校・中学校・高校の教科書、学習指導要領については、網羅的な収集を行っており、研究者をはじめ、教員を目指す学生や現職教員などの幅広い利用者のニーズにこたえている。

本学のこうした特色ある蔵書をデジタルアーカイブとし、また、本学教職員の研究成果の保存・公開を東京学芸大学リポジトリにより公開するなど、インターネット上での情報発信にも力を注いでいる。

平成25年度補正予算により、平成26年6月から平成27年3月にかけて、昭和49年に建築された図書館建物の耐震性能の強化を行うとともに、全面改修を行った。平成27年5月に全面リニューアルオープンした附属図書館にはラーニングコモンズが設置され、アクティブ・ラーニングへの対応が図られた。

さらに、令和元年度国立大学法人等施設整備実施計画協議予定事業に採択され、令和2年1月より教職大学院アクティブラーニングスペースと合わせて図書館増築を実施し、ラーニングコモンズ・閲覧席の大幅拡張とインフォメーションコモンズの整備や、貴重書庫の整備・地下書庫の拡張による収蔵能力増強、大学史資料室の整備を行った。これは、創造力と実践力を身につけ、今日の学校教育における諸課題に積極的に取り組む教員を養成する本学のミッション実現のため、附属図書館が「教えあい学びあう」知の創造と循環を生み出す拠点となるという使命を形にしたものである。



図書館公式キャラクター「まなぶんぶん」

2. 東京学芸大学附属図書館の使命と目標

[「東京学芸大学附属図書館の使命と目標 ～デジタル社会の教育を支える「知の循環」の再構築～」より抜粋]



東京学芸大学附属図書館の使命

東京学芸大学附属図書館は、大学の使命を果たしそのビジョンを実現するために、質の高い学術情報を提供し、教育研究及び学生の学修を支援する拠点の一つとして機能する。デジタル化が一層進展する社会において、蔵書を超えた知識や情報の共有の取組みを進めるとともに、新たな知を紡ぐ場を提供し、「知の循環」を再構築していく必要がある。また、教育現場の支援のために地域社会との連携を進め、さらに世界に向けて本学の研究成果を発信する。



東京学芸大学附属図書館の目標

□ 学術情報基盤の整備

デジタル社会への不可逆的な進展を見据えつつ、日本の教員・教育支援者養成の中核的大学として、新たな教育研究基盤の確立に寄与するため、紙媒体・デジタルを問わず、質の高い学術情報を提供する。来館型サービスに加えて非来館型サービスの充実に努める。また、図書館職員は学術情報の組織化と利活用についての専門知識の習得及び能力向上に努め、学術情報の適切な収集、保存、提供を実現するとともに教員及び学生の研究・教育を支援する。

□ 学生の学修を支援する拠点の一つとして機能

予測不可能な社会の変化に対応し、深い思索を伴った学びを促進するため、学修支援環境の整備を行い、学生のアクティブ・ラーニングを支援する。学生の学びの連続性を確保するためにも、学校図書館との連携を図っていく。また、GIGA スクール時代に対応したリテラシー教育を強化する等により、教員・教育支援者養成の実践の場を提供し、知の創造・発信拠点として「知の循環」を促す。

□ 教育現場、地域及び国際社会に貢献

本学の研究成果及び教育コンテンツのアーカイブと発信の機能を強化し、広く国内外へ還元するほか、図書館の活動を通して現職教員への支援を行う。また、将来の社会変化に伴う多様な利用者を想定し、生涯学習社会における役割を果たし、地域の活性化に貢献する。

※ 『東京学芸大学附属図書館の使命と目標』は、令和3年度第2回学術情報会議で決定された
(令和3年10月25日)。

3. 最近の活動

E-TOPIA : 教育支援者を目指す学芸大生のためのページを公開

令和6年3月25日に「E-TOPIA : 教育支援者を目指す学芸大生のためのページ」を公開した。このページは、教育支援課程で学ぶ本学学生にとって参考となる情報を提供することを目的として、教育支援課程の各コースの主題に関連する図書分類や学習で役立つウェブサイト、ボランティアやインターンシップに関する図書、じぶんの将来やあり方を考える際に参考となる図書、キャリア支援等に関する学内ページを紹介している。

附属図書館では、令和5年3月に「E-TOPIA : 教員を目指す学芸大生のためのページ」を公開しており、教員志望の学芸大生にとって参考となる情報も紹介している。



「E-TOPIA : 教育支援者を目指す学芸大生のためのページ」

<https://lib.u-gakugei.ac.jp/etopia/etopia-s>

入門セミナーを新たな内容で実施

附属図書館は、例年、学部1年生を対象とする必修授業「入門セミナー」における図書館活用法に関する1コマについて、担当教員の希望により、附属図書館職員による授業支援を実施している。

令和5年度は、支援内容を大幅に見直し、「図書館ガイダンス」と「文献検索セミナー」の2部構成とした。特に「図書館ガイダンス」は、学生の大学での学びに即した構成に再編した。学生が大学の授業や研究活動として行う、情報の「探索」、「整理(分析・加工)」、

「表現・発信」を「学びのサイクル」として位置づけ、各フェーズに合わせて図書館の機能や利用方法を紹介する。教員は、「図書館ガイダンス」のみの50分バージョンと、「図書館ガイダンス」と「文献検索セミナー」を実施する100分バージョンから、実施内容を選択できる。令和5年度は、合計36回、約900名の学生に対して支援を行った。



※真家美咲, 新見槇子, 南雲修司ほか「大学の学びのサイクル」を意識した情報リテラシー教育」

大学図書館研究. 2024. 126. <https://doi.org/10.20722/jcul.2168>

古本募金による蔵書の充実

* 東京学芸大学附属図書館〈未来の先生支援〉古本募金

～本の力で、ともに育てる。未来の先生応援プロジェクト～

平成28年10月より、学内外の方から読み終えた資料の寄付を受け、その売却代金で学生のための資料を購入する、古本募金プロジェクトを実施している。開始以来、累計70万円以上の資料購入予算を得ることができ、500冊を超える学生用図書を購入した。令和5年度は、教科教育関係の図書、学習サポーターによる企画展示用図書を購入し、蔵書の充実を図った。

<https://lib.u-gakugei.ac.jp/about/donation>

オープンアクセスの推進

「東京学芸大学リポジトリ」の基盤システムである JAIRO Cloud が、令和5年7月に新 JAIRO Cloud (WEKO3) (以下 WEKO3) へアップデートされた。WEKO3 へのアップデートによる最も大きな変更は、メタデータスキーマが junii2 から JPCOAR スキーマとなったことである。これによってオープンサイエンスの文脈に即したメタデータ記述が可能となるとともに、メタデータの国際相互運用性も高まり、本学の教育・研究成果のより広い流通が期待される。

また、研究データの管理・公開への社会的要請を踏まえ、「東京学芸大学リポジトリ」へ研究データを登録できるよう、令和6年1月に「東京学芸大学リポジトリ管理運営要項」を改正した。加えて、国立情報学研究所が提供する研究データ管理サービス「GakuNin RDM」の学内提供を令和6年3月に開始した。



「東京学芸大学リポジトリ」

<https://u-gakugei.repo.nii.ac.jp/>

<https://rdm.nii.ac.jp/>

デジタルアーカイブ利活用の推進

* デジタルアーカイブを用いた学校教材作りへの参加

令和5年8月、Explayground 推進機構のラボ“Dolphin”の主催により、附属図書館ラーニングcommonsを会場として、「デジタルアーカイブを活用して授業で子どもたちの「問い」を引き出す「教材化」ワークショップ」が開催された。本ワークショップは、デジタルアーカイブを用いて、学校教員や教員志望の学生と図書館・博物館・美術館等の関係者が協力しながら小・中・高等学校における教材を作るもので、附属図書館職員も参加し、活発に教材作成を行った。

令和5年12月には、全国版オンラインワークショップとして開催された「S×UKILAM (スキラム連携)：第7回 多様な資料の教材化ワークショップ」にも参加し、同様に教材作成に取り



デジタルアーカイブを活用して
授業で子どもたちの「問い」を引き出す
「教材化」ワークショップ

8月24日(木) 12:30-16:30 東京学芸大学 小金井キャンパス

組んだ。本ワークショップへは、学校教育現場へのデジタルな資料提供を目指し、当館は初回から資料提供機関として継続的に参加し、各種学校教員との交流、学校教育現場におけるニーズを知る場ともなっている。

※S×UKILAM : Primary Source Sets / スキラム連携 : 多様な資料を活用した教材アーカイブ
<https://adeac.jp/adeac-lab/top/SxUKILAM/index.html>

ジャパンサーチとの連携

令和6年3月、本学のデジタルアーカイブ「東京学芸大学教育コンテンツアーカイブ」は、日本のデジタルアーカイブ利活用の統合プラットフォーム「ジャパンサーチ」と連携した。教育コンテンツアーカイブの資料がジャパンサーチから検索できるようになり、より広い利活用はもちろんのこと、学校教育現場における授業利用、教材作りの素材としての利活用の促進が期待される。



ジャパンサーチ <https://jpsearch.go.jp/>

Library of the Year 2023 優秀賞を受賞

「Library of the Year」は、全国各地の図書館等の知的情報資源に関わる機関・組織が行っている先進的な取り組みを対象として、NPO 法人知的資源イニシアティブ (IRI) が選考・授与している。様々な館種を超えて優れた図書館等の活動を称賛する日本で唯一の賞である。

東京学芸大学附属図書館と東京学芸大 Explayground 推進機構 MOL は、18 回目となる「Library of the Year 2023」において、優秀賞を受賞した。「知の循環」の再構築を図書館の使命として掲げ、図書館が有するひと・もの・ことを活かしながら、以下の活動を通して、教育大学らしく学びを深化させている点が評価された。



〈評価された活動〉

- ・学校教材発掘プロジェクト (教育コンテンツアーカイブ)
- ・E-TOPIA (教員・教育支援者を目指す学芸大生のためのページ)
- ・「学芸本ガチャ！」
- ・デジタル書架ギャラリー・オンライン朝読書ルーム
- ・Labosui (ラボスイ)

※Library of the Year (IRI 知的資源イニシアティブ) <https://www.iri-net.org/loy/>

デジタル教科書の普及活動

* 「デジタル教科書・教材に関する協定書」の締結

デジタル教科書を活用した教育情報化推進のため、令和4年度に引き続き、令和5年6月に「東京学芸大学デジタル教科書・教材に関する協定書」を教科書発行者5社（教育出版、大日本図書、東京書籍、日本文教出版、光村図書出版）と締結した。本協定に基づき、本学教員および学生は、各社が提供する指導者用・学習者用デジタル教科書・教材を学内で使用できるようになっている。

* デジタル教科書講習会の開催



(令和5年4月 大日本図書)

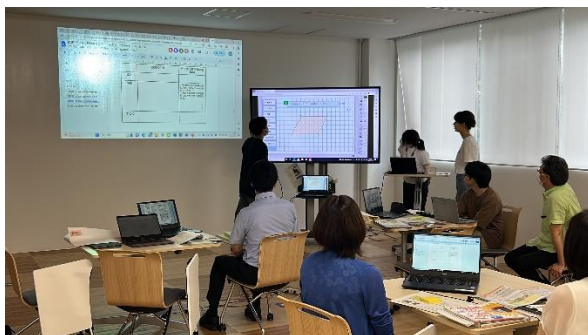


(令和5年5月 教育出版)

「デジタル教科書・教材に関する協定書」に基づき、令和5年度は、大日本図書、教育出版による講習会を開催した。

* 学習サポータによるデジタル教科書セミナー

デジタル教科書利用促進を目的に、学習サポータによるデジタル教科書セミナーを春学期に2回、秋学期に3回開催した。デジタル教科書の基礎を確認する入門編、各社のデジタル教科書を比較しながら活用方法を話し合うディスカッション、模擬授業の実践など、工夫を凝らした内容となった。



(令和5年7月 第2回)



(令和5年12月 第4回)

<https://lib.u-gakugei.ac.jp/learning/textbook>

ラーニングコモンズを拠点とした学習支援活動

* 学習サポータの活動概要

「学習サポータ」とは、活動を通して附属図書館の活性化を図る本学学生スタッフであり、主に以下の活動を展開している。



(1) ラーニングコモンズ内のセミナー等学習支援の企画・実施

- (2) ラーニングコモンズ内展示企画立案, 実施
- (3) ウェブサイトの更新, SNS の更新(Instagram, X)

* 令和5年度の主な活動

【セミナー】

デジタル教科書セミナーを春学期に2回, 秋学期に3回, 計5回開催。

【展示】

- ・「新書 ZOO～教科編～」(令和5年6月～11月)
- ・「あの人もこの人もとびだせ 学芸大生 本の森」
(令和5年11月～令和6年2月)
- ・「謎の書籍 X」(令和6年2月～)



【オープンキャンパスへの参加】

オープンキャンパスにて, 学習サポーターによる高校生向け館内案内を実施。学生の視点から東京学芸大学や附属図書館の魅力を語ってもらった。

<https://lib.u-gakugei.ac.jp/learning/supporter>

東京学芸大学創基 150 周年事業

* 『東京学芸大学 150 年の歩み 1873-2023』 の出版

創基 150 周年記念事業実施委員会の下に設置された「150 年史編集ワーキンググループ」の編集により, 国立大学法人東京学芸大学編『東京学芸大学 150 年の歩み 1873-2023』(学文社, 2023 年) が刊行された。附属図書館も同 WG へ事務担当・編集協力者として参加した。

本書は, 学生が東京学芸大学の歴史を学ぶためのテキストであることがコンセプトの一つとされており, その全文を東京学芸大学教育コンテンツアーカイブで公開している。



https://d-archive.u-gakugei.ac.jp/exhibition/tgu150th_text

* 創基 150 周年記念企画展示 「東京学芸大学 150 年の歩み」開催

令和5年11月1日(水)～15日(水), 附属図書館1階セミナーエリアにて, 創基150周年記念企画展示「東京学芸大学150年の歩み」(主催: 大学史資料室, 共催: 附属図書館)が開催された。本展示は, 現物資料やパネルを展示するほか, 大学史資料室作成の動画の上映も行われ, 師範学校時代から現



在にいたるまでの東京学芸大学の150年間の軌跡をたどることができる内容であり、会期中は学生や教職員、卒業生など多くの来場者があった。

*** デジタルギャラリー「東京学芸大学 150年の歩みギャラリー」の公開**

令和5年10月26日(木)、東京学芸大学教育コンテンツアーカイブにて、「東京学芸大学 150年の歩みギャラリー」を公開した。本ギャラリーは、資料室が所蔵する本学の歴史を伝えるモノ資料40点を新たにデジタル化し、他のコンテンツとあわせて公開したものである。



主なコンテンツとして、『東京学芸大学 150年の歩み 1873-2023』の全文公開の他、東京学芸大学の前身校である師範学校時代の資料を「師範学校アーカイブ」、新制大学時代の資料を「東京学芸大学アーカイブ」として、それぞれ公開している。また、東京府小学教則講習所から現在までの東京学芸大学までの各校を所在地別にまとめ、各校ごとに関連する歴史的資料や附属図書館所蔵の旧蔵書を参照できるようにもしている。

https://d-archive.u-gakugei.ac.jp/exhibition/150th_anniversary

附属学校図書館等との連携

2階展示コーナーにて各学校図書館による展示が実施されたほか、以下のような連携が行われた。

*** 「みんなで学ぼう！ 学校司書講座 2023」への協力**

東京学芸大学学校司書部会により令和5年7月27日(木)に開催された同講座の「デジタル編」に、高橋菜奈子前学術情報課長が講師として登壇した。学校図書館で扱う情報源の一つとしてデジタルアーカイブに焦点を当て、学校図書館現場で活用する力を身につけるための学びが目指された。高橋課長からは、「第一部 デジタルアーカイブって何？」において、デジタルアーカイブの基本的知識や動向を解説し、「第二部 デジタルアーカイブ活用実践編 & 質疑応答」では参加者からの様々な質問に、他の講師と共に答え、意見交換を行った。参加者と共にデジタルアーカイブについて再確認し、学校図書館における可能性や意義について考える貴重な機会となった。

https://www2.u-gakugei.ac.jp/~schoolib/v2/htdocs/nichijoutopics.php?post_id=1312

*** 附属小金井中学校 (GREEN TECH ENGINEER LAB) からの仕器の寄贈**

東京学芸大学 EXPLAYGROUND のラボの一つである GREEN TECH ENGINEER LAB に所属する附属小金井中学校生徒の皆様から、図書館に仕器の寄贈を受けた。同ラボでは、令和2年から中学校生徒が自ら森に入り、樹木の間伐を行い、社会・問題解決につながる制作物を作っている。令和5年度は図書の展示等に利用できる本棚を2本寄贈いただき、グループワークエリアに配置した。



<https://www.facebook.com/GREENTECHENGINEERLAB/>

*** 小金井市立南中学校・職場体験の受入**

令和5年11月28日
(火)～11月30日(木)

に、小金井市立南中学校の生徒3名の職場体験を受け入れた。生徒は当館の概要説明の後、各係

を回りながら、カウンター業務、図書・雑誌の整理業務、和綴じの体験など、多様な実務体験を行った。



4. 加盟組織

・ 国立大学図書館協会 (JANUL)

<https://www.janul.jp/ja>

・ 国立教育系大学図書館協議会 (JANUEL)

*** 国立教育系大学図書館協議会サブ・コンソーシアム**

国立教育系大学でサブ・コンソーシアムを組み、Elsevier社の電子ジャーナル・パッケージ製品について、平成17年以降、本学が契約窓口となり一本化した契約を行っている。大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) 提案を基本としつつ、教育系大学の事情に配慮した措置が適用されている。令和5年現在、本学を含む9大学が参加している。

<https://lib.u-gakugei.ac.jp/januel>

*** 教育系サブジェクトリポジトリ構築事業**

国立教育系大学を中心に私大なども含め6大学 (大阪教育大学、兵庫教育大学、奈良教育大学、愛知教育大学、上越教育大学、文教大学) の協力を得て、リポジトリのメタデータに教育主題情報を付与する事業を行っている。「学術機関リポジトリデータベース (IRDB)」や「CiNii Research」などのサイトで、学校種別や教科名から教育関連情報を検索可能とすることを目的としている。

<https://www2.u-gakugei.ac.jp/~library/edusr/>

・ オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR)

令和元年度より、当館は同協会に運営委員および作業部会員を派遣している。令和5年度も引き続き、同協会に運営委員 (1名)、作業部会員 (コンテンツ流通促進作業部会:1名、広報・普及作業部会:1名) を派遣し、リポジトリを通じた知の発信システム構築の推進、我が国のオープンアクセス・オープンサイエンスに資する活動を行った。

<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/>

・ 大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE)

大学図書館コンソーシアム連合では、日本の大学における教育・研究活動に必須である電子ジャーナルをはじめとした学術情報を、安定的・継続的に確保して提供するための活動を推進している。当館も加盟し、電子ジャーナル契約に向けた情報収集、交渉等を行っている。

<https://contents.nii.ac.jp/justice>

利用案内

1. 開館時間

	授業期	休業期
月～金	8:30-21:30	8:30-17:00
土・日・祝日	11:00-18:00	

2. 各種サービス時間

	平日		土・日・祝日	学外者 可否
	授業期	休業期		
書庫入庫/出納	8:30-21:00	8:30-16:30	11:00-17:30	出納のみ可
修士・博士論文閲覧室利用				可
グループ学習室の利用				----
セルフコピー				可
マイクロ資料利用	8:30-12:00, 13:00-16:30		----	可
カウンター内でのコピー				----
貴重書利用(事前申請が必要)	8:30-16:30			可
レファレンス	レファレンス	8:30-17:00 (文献の受取は16:30まで)	----	可
他大学図書館の 利用	紹介状の発行			----
	文献取寄せ・借受			----

3. 貸出冊数・期間

	貸出区分	冊数	期間
本学教職員及び学生 (教職員, 学部学生, 大学院生, 特別専攻科の学生, 研 究生, 科目等履修生)	一般図書	12冊	1ヶ月
	雑誌	3冊	1日
卒業生, 現職教員 一般市民(満18歳以上, 他大学等に所属していない者)	一般図書	6冊	2週間

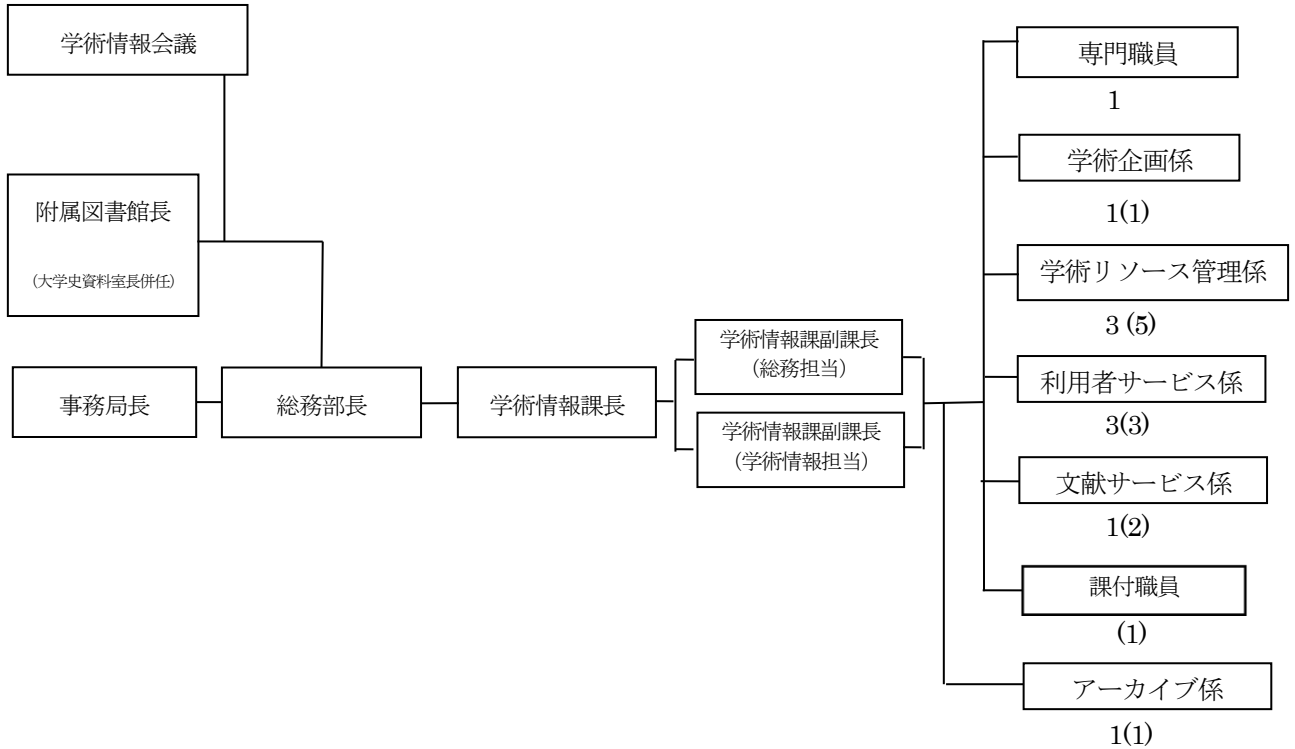
4. インターネットサービス

- ・ 附属図書館ホームページ (図書館からのお知らせ, 利用案内, 活動報告等を掲載)
- ・ OPAC(Online Public Access Catalog, 蔵書の約 75%にあたる約 700,000 件が検索可能)
- ・ マイライブラリ (学内者のみ。インターネットを通じた利用状況照会, 各種申し込み)

組 織

1. 組織

(令和6年7月1日現在)



2. 職員数

(令和6年7月1日現在)

課 長	副課長 ・ 室長	専門職員 ・ 係長	主任・係員等	合 計
1	2	5	4 (13)	12 (13)

() 内は、
非常勤職員
数で外数

3. 歴代附属図書館長

氏 名	在職期間	氏 名	在職期間
阪 本 一 郎	昭 24. 7.31～昭 34. 3.31	小 林 文 人	昭 62. 4. 1～平 3. 3.31
久 富 貢	昭 34. 4. 1～昭 36. 3.31	野 村 東 助	平 3. 4. 1～平 5. 3.31
千々和 実	昭 36. 4. 1～昭 38. 3.31	大 井 清 吉	平 5. 4. 1～平 7. 3.31
岩 田 孝 三	昭 38. 4. 1～昭 43. 3.31	岡 本 靖 正	平 7. 4. 1～平 9.11. 9
桜 井 芳 朗	昭 43. 4. 1～昭 43. 5.19	水 田 徹	平 9.11.10～平 11. 3.31
鎌 田 正 宣	昭 43. 5.19～昭 43. 6.30	鷺 山 恭 彦	平 11. 4. 1～平 15. 3.31
大 内 進	昭 43. 7. 1～昭 46. 3.31	高 鷺 忠 美	平 15. 4. 1～平 16. 3.31
神 蔵 重 紀	昭 46. 4. 1～昭 48. 3.31	細 江 文 利	平 16. 4. 1～平 20. 3.31
藤 本 光	昭 48. 4. 1～昭 50. 3.31	出 口 利 定	平 20. 4. 1～平 22. 3.31
辻 本 芳 郎	昭 50. 4. 1～昭 52. 3.31	長 谷 川 正	平 22. 4. 1～平 24. 3.31
桑 原 経 重	昭 52. 4. 1～昭 54. 4. 1	藤 井 健 志	平 24. 4. 1～平 28. 3.31
稻 森 潤	昭 54. 4. 2～昭 58. 4. 1	大 石 学	平 28. 4. 1～平 30. 3.31
石 渡 毅	昭 58. 4. 2～昭 62. 3.31	川 手 圭 一	平 30. 4. 1～

4. 学術情報会議名簿(令和6年度)

所属・職名等	氏 名	備 考
附属図書館長	川 手 圭 一	職指定 委員長
総合教育科学系	松 尾 直 博	職指定 学系長
人文社会科学系	木 村 守	
自然科学系	土 橋 一 仁	
芸術・スポーツ科学系	鉄 矢 悦 朗	
図書館学	前 田 稔	委員長が必要と認めた者 総合教育科学系教育学講座
総務部長	西 條 英 吾	職指定

所蔵資料

1. 特別コレクション

1)国内関係

望月文庫 (東京府青山師範学校創立50年記念文庫)	大正15年に東京府青山師範学校創立50年記念事業のひとつとして、師範教育に関する図書を集めたもので、望月軍四郎氏らの厚意によって設置された。往来物や明治初年以來の初等教育の教科書、教育書を含むコレクションである。(貴重図書)	7,627冊
松浦文庫	松浦鎮次郎氏を中心とする教育史編纂会が昭和13年に『明治以降教育制度発達史』を完成させ、会を解散させるにあたって、その図書、資料を東京府大泉師範学校に寄贈したもので、松浦氏自身の自筆草稿、教育法規、小学校教科書、教育史関係資料等が含まれる。(貴重図書)	1,470冊
日本近代教育史資料	江戸時代から戦前までの、往来物、双六、教科書、図書などの教育史関連資料。(貴重図書)	約6,700冊
双六コレクション (近世庶民教育資料)	小学尋常科高等科修業壽語禄、教育善悪子供双六、単語の図壽古呂久、女教訓出世双六など、近世庶民教育及び近世児童教育に寄与した江戸から明治にかけての双六コレクションである。(貴重図書)	194点
竹早文庫	東京第一師範学校女子部が昭和22年に戦時中文部省の外郭団体であった日本文化中央連盟の蔵書を一括購入したもので、哲学、史学、文学及び社会科学分野の図書、全集及び学術雑誌を含む。	約14,000冊
瀬川文庫	本学元教授の故瀬川三郎氏の旧蔵書を昭和44年に寄贈を受けたもので、ギリシャ文化・思想をはじめ、本学で教授された教育原理、教育哲学関係の図書等のコレクションである。	1,356冊
教育課程文庫	昭和22年初頭に米国から日本に寄贈された資料を中心に、米国の代表的教科書・教育専門書、日本の国定及び民間編集の教科書、学習指導要領等を含む。	7,910冊
西村文庫	西村四郎氏(サクラクレパス相談役)より寄贈された明治初期教科書『西画指南』(日本で最初の図画教科書)をはじめとする明治初期から昭和戦前期に至る美術教育関係資料。(貴重図書)	約3,800冊
梶文庫	本学元教授の梶外志子氏の旧蔵書。算数・数学教育を中心とする図書・雑誌・教科書など。	5,269冊

IFEL(The Institute For Educational Leadership)資料	IFELは、戦後文部省とCIE(GHQ民間情報教育局)が共催した教育指導者講習。この講習会の研究成果である「教育指導者講習研究集録」はIFELの実態を示す貴重な資料であり、特に本学で開設した小学校の管理や教育内容に関するものが多く含まれる。	186冊
プランゲ文庫雑誌コレクション	メリーランド大学のプランゲ文庫に含まれている戦後の日本占領下、特に1945年から1949年にかけて発行された資料のうち、教育関連の雑誌1,646タイトルのマイクロフィッシュ版。	3,918シート
戦後の教科書・指導書	小学校・中学校の教科書・指導書、高校の教科書について、各社から出版されたものを網羅的に所蔵。	約50,000冊
学習指導要領	幼稚園教育要領から小・中・高等学校、特別支援学校(養護・盲・聾学校)にわたって、学習指導要領を網羅的に所蔵。	約1,200冊
墨田民研資料	本学元教授故海老原治善氏を初代所長として、東京都教職員組合墨田支部(現墨田区教職員組合)により設立された墨田民主教育研究所が教育実践の研究を進めるため収集してきた資料群の一部。人権教育・同和教育・教育労働運動を主題とする図書・雑誌・機関紙など。本学に全学必修科目「人権教育」が開設されたことをふまえ、寄贈を受けた。	923冊
谷川俊太郎合唱コレクション 文庫《声のオーロラ》	詩人 谷川俊太郎氏から寄贈された自作の詩による合唱曲の楽譜約470冊のほか、同氏の詩集、音楽CD資料などを収蔵。平成29年に本学音楽科教室が開催した合唱講座に谷川氏が講師として招かれ、その記録等を収めた書籍『声が世界を抱きしめます』(東京学芸大学出版会)を製作する過程で、同氏所蔵の合唱楽譜の寄贈を受けることになった。本コレクションは同書のために書き下ろされた詩「合唱」の一節から、文庫《声のオーロラ》と命名された。	約520冊

2)海外関係

ドイツ教育学集書	1820年から1957年にかけてドイツで出版された教育学関係の図書、雑誌、モノグラフシリーズからなる。特に二つの世界大戦を含む1920年～30年代の資料が多い。[1978年国立大学大型コレクション]	2,478冊
英国教育学文献集成	1900年以降に発行されたイギリスの教育関係資料が中心。ヨーロッパ諸国等の教育関係資料も若干含まれている。[1979年国立大学大型コレクション]	2,011冊
フランス教育学集書	17世紀以降にフランスにおいて発行された教育論、教育史、教育方法に関する集書。[1980年国立大	176冊

	学大型コレクション]	
ロシア・ソビエト教育研究雑誌コレクション	19世紀から20世紀のロシア、ソビエト連邦における教育関係の雑誌、目録、個人著作などをマイクロ化した資料(マイクロフィッシュ)。[1981年国立大学大型コレクション]	522シート
ヘボンその他の外国人編纂による日本語・東洋語辞書コレクション	ヘボンの『和英辞典』初版(1867)をはじめとする幕末から明治期に刊行された外国人による日本語・東洋諸語の辞典18種からなるコレクションで、殆どが稀覯の原本である。[1983年国立大学大型コレクション](貴重図書)	25冊
欧米障害児教育基本文献集成	特殊教育に関する米、英、独、仏の文献集成で、1956年以降に刊行された図書を中心とし、心理学、教育学、生理学全般を含むコレクションである。[1984年国立大学大型コレクション]	866冊
17世紀-19世紀フランス教育史コレクション	17世紀中葉から19世紀に出版されたフランス教育に関するコレクションで、稀覯本を含む。[1989年国立大学大型コレクション](貴重図書)	262タイトル (276冊)
ルドルフ・シュタイナー文献コレクション	ルドルフ・シュタイナーの著作、講演録418点と弟子たちの著作272点からなるコレクションで、人智学、神智学を中心に宗教、教育、芸術等の分野にわたる。[1993年国立大学大型コレクション](貴重図書)	690タイトル (740冊)
ERIC資料	ERIC (Educational Resources Information Center) が作成した教育関係の二次資料のうち、RIE (Resources in Education)に収録された原報(一次資料)をマイクロ化したもの。	470,827シート
外国教科書	フィンランド、ドイツ、フランス、韓国などを中心に、各国で使用されていた外国の教科書の資料群。1960~1970年代が中心。	約5,000冊

2. 電子ジャーナル

エルゼビア社のScienceDirect等約10,000タイトルを契約している。(令和6年4月現在)

サービス名	提供元	タイトル数
ScienceDirect	Elsevier	2,314
Arts and Sciences I Collection	JSTOR	184
Psychology & Behavioral Sciences Collection	EBSCO	469
Education Source	EBSCO	1,943
Academic Search Premier	EBSCO	4,760
合 計		9,670

3. 電子ブック

Maruzen eBook Library等約15,000タイトルを購入している。(令和6年4月現在)

サービス名	提供元	タイトル数
Maruzen eBook Library	丸善雄松堂	1,256
KinoDen	紀伊國屋書店	184
EBSCO eBOOK Collection	EBSCO	135
Springer eBooks	Springer	14,231
Elsevier eBooks	Elsevier	11
合 計		15,817

4. オンラインデータベース (学内LANに接続したパソコンから利用可能なデータベース)

- ① 朝日新聞クロスサーチ
- ② MathSciNet
- ③ PsycINFO
- ④ ERIC
- ⑤ SciFinder Discovery Platform for Academics
- ⑥ Scopus
- ⑦ ジャパンナレッジLib (追加：国史大辞典・角川古語大辞典)
- ⑧ TKCローライブラリー
- ⑨ 雑誌記事索引集成データベース
- ⑩ ナクソス・ミュージック・ライブラリー
- ⑪ LISTA(Library, Information Science & Technology Abstracts)
- ⑫ GreenFILE

5. CD-ROM, DVD-ROM (館内特定端末での提供)

- ① CD毎日新聞
- ② 明治の読売新聞, 大正の読売新聞, 昭和の読売新聞
- ③ 新編国歌大観
- ④ 角川日本地名大辞典
- ⑤ デジタル伊能図
- ⑥ 大漢和辞典

6. デジタル教科書 (館内特定端末および貸出PCでの提供)

■小学校

科目	出版社	学年	タイプ	
			学習者用 (試用版)	指導者用
算数	東京書籍	1～6年	×	○
理科	大日本図書	3～6年	×	○
英語	東京書籍	5～6年	×	○

■中学校

科目	出版社	学年	タイプ	
			学習者用 (試用版)	指導者用
社会	日本文教出版	地歴公民	×	○

数学	東京書籍	1～3年	○	○
理科	大日本図書	1～3年	×	○
	東京書籍	1～3年	○	○
美術	日本文教出版	1～3年	×	○
英語	東京書籍	1～3年	○	○

7. 自館作成デジタルコンテンツ

- ① 東京学芸大学教育コンテンツアーカイブ (図書館資料の他, 学内コンテンツを公開)
- ② 東京学芸大学リポジトリ
- ③ 学位論文データベース

①

東京学芸大学教育コンテンツアーカイブ
Tokyo Gakugei University Education Content Archive

お知らせ
2022-05-08 「東京学芸大学教育コンテンツアーカイブ」をリニューアルしました。

東京学芸大学教育コンテンツアーカイブとは
東京学芸大学附属図書館は、東京学芸大学の研究・教育活動を支えるデジタルコンテンツを、数多く、公開・公開するプラットフォームです。

コレクション
学芸資料の活用
東京学芸大学アーカイブ
新刊図書
東京学芸大学リポジトリ

学校教材を探す
電子展示

Copyright © Tokyo Gakugei University. All Rights Reserved.

②

東京学芸大学リポジトリ
Tokyo Gakugei University Repository

WEKO
トップ | ログイン

Language: インデックスリスト オブジェクト
日本語 | 国語学雑誌 [1589件]

インデックスリスト | 人文社会科学 [1661件]

国語学雑誌 [1589件]
国語学雑誌 [1589件]
国語学雑誌 [1589件]
国語学雑誌 [1589件]
国語学雑誌 [1589件]
国語学雑誌 [1589件]
国語学雑誌 [1589件]

お知らせ
★大規模アップデートのお知らせ
東京学芸大学リポジトリの最新のバージョンは、Open Accessの論文の検索・閲覧がより容易になるように、いくつかの変更が行われています。以下の通り、一部変更が実施されています。ご不便をおかけいたしますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。

【サービス終了情報】
国語学雑誌データベース
4月29日 (土) ~ 5月2日 (火)

③

東京学芸大学 附属図書館
Tokyo Gakugei University Library

利用案内 | 資料検索 | 学習・研究支援 | コレクション | 学術の方へ | 附属図書館について

本学学位論文 (修士論文・博士論文)

【書誌情報を調べる】
博士論文・修士論文の書誌情報を検索する
【学位論文データベース*学内ネットワークからの閲覧のみ*】
*閲覧権限: [検索]

【本文を閲覧する】
インターネットで博士論文の本文を閲覧する
※平成25年度以降の博士論文の本文をインターネット公開しています。
インターネット非公開の博士論文については、原則、論文の要約を公開しています (館内での閲覧は可能)。
→博士論文 [東京学芸大学リポジトリ]

施設・設備

1. 図書館施設

1) スペース利用状況

使用区分	面積	割合	備考
サービススペース	3,193㎡	39.8%	閲覧室等
収蔵スペース	2,450㎡	30.5%	開架書架を含む
管理スペース	635㎡	7.9%	
その他	1,747㎡	21.8%	カフェを含む
合計	8,025㎡	100.0%	RC地下1階地上3階建

2) 閲覧座席数等

事項	数量	備考
閲覧座席数	720席	
開架図書冊数	約144,000冊	
図書収容力*	棚板延長	25,474m
	収容可能冊数	約826,000冊

*この他に、図書館の建物とは別棟の「外部保管庫」に約7万冊の収容力あり。

2. 主要設備

1) 図書館電動設備

設備	数量	備考
電動式集密書架	1式(2,774連)	地階書庫
入退館ゲート	3式	※平成27年4月導入 入館ゲート(2ゲート) 1式 書庫用ゲート(1ゲート) 1式 退館ゲート(1ゲート) 1式
ブックディテクションシステム	1式	IDEC BP2020-2



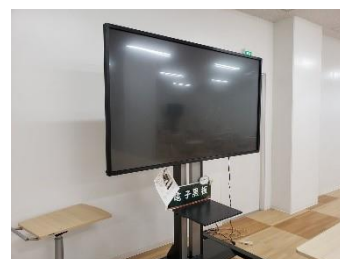
*入退館ゲートおよびブックディテクションシステム

2)視聴覚機器

機 器	数 量	備 考
ビデオデッキ	5台	VHS 4台, B1台
LDプレーヤー	3台	
DVDプレーヤー	8台	ブルーレイ対応
CDプレーヤー	2台	MD複合機1台を含む
ステレオ装置	1台	

3)デジタル教科書提供用機器

機 器	数 量	備 考
電子黒板	2台	SONY製 75インチ
ノートPC	5台	



*電子黒板

4)図書館コンピュータシステム主要機器

システム	機 器	機 種	数量
図書館システム (令和3年度更新)	業務サーバ, 情報サービスサーバ	ICTセンターシステム内仮想 マシン	2
	業務用端末	Fujitsu ESPRIMO D7010/F	29
	ネットワークプリンタ	RICOH SP6420	1
	ハンディターミナル	BT-600-R	4
	利用者用端末 (蔵書検索用)	Fujitsu ESPRIMO D7010/F	5
	利用者用端末 (情報検索用)	Fujitsu ESPRIMO D7010/F	4
	講習会用ノートPC	Fujitsu LIFEBOOK A7511/G	3
	自動貸出装置	住友スリーエム ABC-T1	1
	図書館システムソフトウェア	LIMEDIO (RICOH)	1
図書館Webサーバ (令和3年度更新)	Webサーバ	ICTセンターシステム内仮想 マシン	1
東京学芸大学リポジトリ	JAIRO-Cloud (Weko2)	国立情報学研究所のクラウド サービスを利用	1
デジタルアーカイブシ ステム (令和3年度更新)	デジタルアーカイブシステム サーバー	PRIMERGY RX2540 M5	1

5)ネットワーク設備

	地階	1階	2階	3階	合計
情報コンセント	-	134	90	21	245
無線LANアクセスポイント	-	3	4	1	8

統 計

1. 主たる利用対象者数

1) 学生数 (令和6年5月1日現在)

学部学生	特別 専攻科 学生	大学院 (修士課程)	教職 大学院	大学院 連合 (博士課程)	その他の 学生	合 計
4,399	11	239	398	170	143	5,360

2) 職員数 (令和6年5月1日現在)

学 長	理 事	監 事	教 員	附属学校運営参事	附属学校教員	職 員	合 計
1	5	2	273	1	333	229	836

2. 蔵 書

1) 受入図書・雑誌数

		図 書 (冊)			雑 誌 (種)		
		和 書	洋 書	計	和雑誌	洋雑誌	計
令 和 5 年 度	購 入	3,125	115	3,240	349	60	409
	受 贈	960	100	1,060	394	7	401
	製 本	172	2	174	-	-	-
	除 却	1,687	185	1,872	-	-	-
	合 計 ^{*1 *2}	4,257 (3,639)	217 (126)	4,474 (3,765)	743 (613)	67 (16)	810 (629)

*1 除却は含まない。 *2()内は附属図書館備付分

2) 蔵書冊数

	図 書 (冊)			雑 誌 (種)		
	和 書	洋 書	計	和雑誌	洋雑誌	計
令和5年度末	696,343	219,304	915,647	8,471	3,343	11,814

3) 視聴覚資料 (令和6年3月31日現在)

資料タイプ	タイトル数	資料タイプ	タイトル数
CD	2,120	LD	114
レコード	1,331	ビデオテープ	1,183
カセットテープ	206	DVD	1,790
映画フィルム(16/8mm)	230	マイクロフィルム/フィッシュ	178

3. 利用状況

1)開館日数

年 度	平 日	土日祝日	合 計
令和5年度	232日	87日	319日

2)入館者数

年 度	種別	平 日	土日祝日	合 計
令和5年度	総 数	201,881人	14,955人	215,324人
	1日平均	870人	171人	674人

3)貸出冊数*1

年 度	種別	平 日	土日祝日	合 計
令和5年度	総 数	37,503冊	4,808冊	42,311冊
	1日平均	161冊	55冊	132冊

4)視聴覚資料利用状況

年 度	利用件数
令和5年度	275

5)参考質問受付件数

		学 生	教職員	学外者	合 計
令和5年度	利用案内	57	14	7	78
	文献所在調査	168	120	76	364
	事項調査	28	29	10	67
	合 計	253	163	93	509

6)学内複写(単位：枚数)

		学内者		学外者	合 計
		私 費	校 費	私 費	
令和5年度	カウンター内	474	1,162	147	1,783
	セルフ機	—	—	—	143,089
	合 計	—	—	—	144,872

7)オーダーメイド講習会実施回数 ※令和5年10月より「図書館活用セミナー」に名称を変更

年 度	春学期	秋学期	合 計
令和5年度	9	4	13

4. 相互協力

1) 文献複写(単位：件)

		学外への依頼			学外からの 受付
		校 費	私 費	合 計	
令和 5 年度	国 内	324	789	1,113	774
	国 外	3	1	4	0
	合 計	327	790	1,117	774

2) 現物貸借

年 度	借 用	貸 出
令和5年度	231冊	297冊

3) 関 覧

年 度	依 頼	受 付
令和5年度	26	11

5. 市民への公開

1) 貸出状況

年 度	登録者数*1	貸出冊数
令和5年度	597人	2,861冊

*1 令和5年度末(令和6年3月31日)現在の総登録人数。

6. 機関リポジトリ

1) 登録コンテンツ数

年 度	一次情報(本文データ)	二次情報(メタデータ)
令和5年度末現在	8,891件	25,266件

2) 東京学芸大学発行紀要の公開(令和5年度)

部 門	掲載記事数(機関リポジトリ公開数)
東京学芸大学論叢(第1集)	10
東京学芸大学紀要(第75集)	
総合教育科学系	26
人文社会科学系	18
自然科学系	17
芸術・スポーツ科学系	7
教職大学院	11
機構	15

※第60集(平成20年度)以降、掲載論文はすべて機関リポジトリで公開。第71集以降は、冊子体での刊行を中止し、電子でのみ刊行。

3)利用状況

年 度	アクセス数	ダウンロード数
令和5年度	661,524件	884,247件

7. デジタルアーカイブ 登録コンテンツ数

コレクション名	件数	コレクション名	件数
学校教員のための研修動画	89件	浮世絵に見る学びと遊び	73件
キャンパスアーカイブ	30件	往来物	2,504件
東京学芸大学アーカイブ	19件	おもちゃ絵	64件
師範学校アーカイブ	58件	心学資料	105件
明治期教科書	2,161件	旧外地教科書	8件
絵双六	155件	その他教育史資料	366件

8. 資料費等予算 (単位：千円)*1

			令和5年度
図書購入費(資料費)	附属図書館	図書費*2	18,868
		電子ジャーナル経費	19,470
		データベース経費	14,798
		その他	160 (留学生経費)
		小 計	53,296
	研究室等	教員研究用図書費	24,798
		附属学校等図書費	0
		小 計	24,798
	合 計		78,094
	製本費	図書館製本費	301
研究室等製本費		105	
合 計		406	
総計		78,500	

*1 附属図書館資料費は予算ベースの金額であるが、研究室等の資料費、および製本費は執行ベースの金額である。

広 報

1. 出版物

タイトル	刊行頻度
図書館利用案内	—
東京学芸大学附属図書館概要	年1回
東京学芸大学附属図書館かわらばん	年2回

2. ウェブサイト

サービス	URL
附属図書館ホームページ	https://lib.u-gakugei.ac.jp/
公式 X	https://x.com/gakugei_lib
E-TOPIA：教員・教育支援者を目指す学芸大生のためのページ	https://lib.u-gakugei.ac.jp/etopia
東京学芸大学教育コンテンツアーカイブ	https://d-archive.u-gakugei.ac.jp/



※ 附属図書館ホームページ（2020年3月リニューアル）



※ 東京学芸大学附属図書館かわらばん

沿 革

昭和 24 年 5 月	東京第一師範学校，東京第二師範学校，東京第三師範学校及び東京青年師範学校を統合して，東京学芸大学が設置され，同時に附属図書館を設置 本館を世田谷地区に置き，他に 4 分館・1 分室を置く
昭和 30 年 3 月	3 分館・1 分室を小金井分館に統合
昭和 36 年 3 月	小金井地区に図書館施設を新築(図書館 1,765 m ² ，書庫 808 m ²)
4 月	小金井分館を本館とし，世田谷本館を分館とする
昭和 39 年 3 月	世田谷分館を小金井地区に統合
昭和 44 年 3 月	『一般教育読書案内』刊行。後に『共通科目のための読書案内』として，2009 年まで刊行(2006～2009 は Web 版のみ)
昭和 49 年 3 月	延床面積 6,241 m ² の図書館新館を建設
8 月	自由閲覧室および開架閲覧室の一部を開館
9 月	全面的に開館
昭和 50 年 4 月	部課長制を導入，1 部・2 課(整理課，閲覧課)を設置
昭和 52 年 4 月	電算機(OKITAC 50/40)による閲覧業務を開始
7 月	電算機による図書受入業務を開始
昭和 54 年 5 月	電気通信大学と閲覧業務共同処理システムを開始(昭和 63 年 3 月まで)
昭和 56 年 3 月	情報検索端末装置を導入
昭和 56 年 8 月	電算機による雑誌受入業務を開始
昭和 61 年 3 月	ブックディテクションシステム(3M M-1850)を導入 電算機システムを更新(HITAC L-4701) 学術情報センター(現国立情報学研究所)ネットワークに加入
昭和 62 年 3 月	文献複写用ファクシミリ(キャノファックス Laser930G)を導入
昭和 63 年 4 月	整理課を情報管理課に，閲覧課を情報サービス課に名称変更
平成 2 年 4 月	電算機を更新(HITAC M620/20) 情報処理センターシステムに図書館サブシステムが設けられ，目録作成業務を開始(Data General ECLIPSE MV/2500DC)
6 月	オンライン利用者用目録(OPAC)の運用開始
平成 3 年 2 月	CD-ROM 導入
平成 4 年 4 月	ILL(Inter Library Loan)システムの運用開始
10 月	授業期の土曜日開館を開始
平成 6 年 2 月	電算機を更新(HITAC M-840/20)
7 月	自己点検・評価を実施
平成 7 年 1 月	授業期の日曜・休日開館を実施
2 月	本学教官の研究成果の収集を開始
平成 7 年 3 月	情報処理センターシステム，図書館サブシステムを更新(UNIX システム： LIMEDIO, CD-ROM サーバ)
7 月	自己点検・評価報告書『総合学術情報サービスに向けて - 自己点検・評価と将来計画 -』を発行

平成 8 年 3 月	パソコン端末設置閲覧室及び情報コンセント等設置閲覧席を整備
5 月	図書館ホームページを開設
10 月	学術情報委員会発足
平成 9 年 3 月	特別資料閲覧室を設置し、視覚障害者用機器を整備 ブックディテクションシステムを更新(3M M-2301)
4 月	夜間大学院及び昼夜開講制開設に伴い、時間外開館を延長 新聞閲覧室にコピーコーナーを整備
10 月	望月文庫往来物資料のデータ入力を実施(平成 9 年度科学研究費補助金)
平成 10 年 1 月	教育史関係書誌のデータ入力を実施(平成 9 年度科学研究費補助金)
2 月	電算機を更新(SUN Ultra2 Model 2170) 入館管理システムを設置
3 月	特別資料閲覧室の視覚障害者用機器等を拡充整備 視覚障害者用点字ブロック等を設置
4 月	貸出制限冊数を変更
7 月	東京学芸大学自己点検・評価及び外部評価の一環として、附属図書館の自己点検・評価を実施
平成 11 年 2 月	望月文庫往来物資料の画像データ作成及び教育史関係書誌のデータ入力を実施(平成 10 年度概算要求補助金)
3 月	情報処理センターシステム、図書館サブシステムを更新(SUN Ultra30 Model 300) 図書の不用決定及び廃棄の基準を制定
8 月	1 階新聞閲覧室に自動販売機を設置
平成 12 年 1 月	望月文庫往来物資料の画像データを作成(平成 11 年度科学研究費補助金)
3 月	教育史関係書誌のデータ入力を実施(平成 11 年度科学研究費補助金)
6 月	全国国立教育系大学附属図書館協議会による読書実態調査を実施
平成 13 年 7 月	文献画像伝送システムの伝送テストを実施(国立大学図書館協議会東京地区協議会)
9 月	教育系電子情報ナビゲーションシステムを導入
10 月	GIF(Global ILL Framework)による日米 ILL/DD 試行運用に参加
平成 14 年 4 月	日米 ILL/DD 本格運用に参加
10 月	教育情報のポータルサイトである教育系電子情報ナビゲーションシステム(E-TOPIA)のサービスを開始
平成 15 年 3 月	情報処理センターシステムと図書館事務用電子計算機システムの契約を一本化 図書館エントランスの改修
4 月	学外者(本学卒業生及び現職教員)に対する館外貸出を開始 多摩地区国立 4 大学附属図書館(東京外国語大学、東京学芸大学、東京農工大学、電気通信大学)間の相互利用協定を締結 多言語対応 OPAC(オンライン目録)及び携帯対応版 OPAC を公開
6 月	Web サービスの拡大(図書購入依頼、相互利用申込、図書貸出予約) 教育実践データベースを E-TOPIA より公開
8 月	電子ジャーナルのアーカイブコレクション JSTOR を導入 日米 ILL/DD 現物貸借サービスに参加

10月	月例休館日の廃止及び年末年始開館日の拡大
11月	グローバル OPAC 横断検索システムを公開 学部生の書庫入庫を拡大
平成 16 年 3 月	閲覧室の無線 LAN を拡充
4 月	レファレンスデスクを 1 階閲覧室に移動 視聴覚資料, ノートパソコンの館内貸出電算化処理開始 国立大学法人化に伴い資産を新法人に継承 図書館事務組織を学術情報部に改組 学生証と図書館利用証を一体化
11 月	日韓 ILL/DD 暫定サービスに参加
平成 17 年 2 月	自動貸出機設置
3 月	指定図書制度廃止 1 階配架の教科書・指導書貸出停止 電子的授業支援サービス(ECR)の正式運用開始
4 月	2 階に論文閲覧室設置, 学位論文を書庫から移動 情報基盤整備室の設置に伴う学術情報部の改組 開館時間を 9:00 から 8:30 に変更
8 月	ピータイル床の部分改修(全館) 貸出カウンターとレファレンスデスクを統合し, サービスカウンターを設置
平成 18 年 2 月	1 階エントランスホール及びサービスカウンターの改修
3 月	館長室及び部長室の改修 往来物資料のデータ入力を実施(平成 17 年度科学研究費補助金)
4 月	院生用閲覧コーナー(3 階)の設置 「東京学芸大学リポジトリ」公開(国立情報学研究所委託事業) 『図書館ニュース』をリニューアルし, 誌名を『ライぶらり』とする
5 月	情報処理授業支援「情報の検索と活用」を実施(20 教室) ライブラリー・ランチタイム・コンサート(弦楽四重奏)を試演
平成 19 年 1 月	図書館天井のアスベスト除去工事と空調設備工事に伴い全館休館
3 月	図書館天井のアスベスト除去工事と空調設備工事を完了(全館) 院生用閲覧コーナーを改装 図書館システム(情報処理センター情報処理システムのサブシステムとして)を更新 マイライブラリーのサービスを開始 E-ラーニングシステム運用開始に伴い電子的授業支援サービス(ECR)停止 往来物資料のデータ入力を実施(平成 18 年度科学研究費補助金)
6 月	E-TOPIA のリニューアル公開
平成 20 年 3 月	明治初期教科書のデータ入力を実施(平成 19 年度科学研究費補助金)
4 月	学術情報課と情報基盤課の 2 課体制とした学術情報部の改組
8 月	地下書庫電動式集密書架の改修に伴い, 地下書庫を閉庫 附属小金井中学校生徒の職場体験学習受け入れ(以降, 毎年ではないが受け入れを行っている)
11 月	地下書庫電動式集密書架の改修を完了(17 単位中 13 単位の改修)
12 月	シンポジウム『教育系サブジェクトリポジトリの可能性を求めてーネットワーク時代の教育情報発信を考えるー』を開催(附属図書館 3 階 AV ホール)
平成 21 年 3 月	ブックディテクションシステムの更新(IDEC BP2020-2) 図書館エントランスの改修 無線 LAN の更新(全館)

	教育系サブジェクトリポジトリポータル公開
4月	音楽DB「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」正式サービス開始 知識探索サイト「ジャパンナレッジ・プラス」正式サービス開始 「雑誌記事索引集成データベース」正式サービス開始 電子ブック「NetLibrary」正式サービス開始
7月	組織改編により学術情報課及び情報基盤課が教育研究支援部所属となる
9月	地下書庫電動式集密書架の改修に伴い、地下書庫を閉庫
10月	地下書庫電動式集密書架の改修を完了(17単位全ての改修完了)
平成22年1月	学校図書館運営専門委員会、授業に役立つ学校図書館活用データベース公開
3月	特別教育研究経費による貴重資料の修復・保存事業が完了(平成21年4月～)
5月	電子ジャーナルの見直しを行い「Academic Research Library」の次年度以降契約を中止決定 ジャパンナレッジに『国史大辞典』を追加
6月	貴重資料1,095点を電子化、デジタルアーカイブ「学びと遊びの歴史」を公開 教育実習図書のおすすめ先を「教育実習主任」に変え「教育実習用図書コーナー」を設置
7月	年1回の刊行となっていた広報誌『ライぶらり』を廃刊し、本と人をつなぐことを目的とした季刊の『まめリブ』を刊行(平成24年1月号で終刊)
8月	一般雑誌の見直しを行い、休刊を含む18誌を購読中止し、27誌を新規購入
平成23年3月	平成22年4月・10月の学生懇談会に続き、館長を囲む教員との懇談会を開催 「附属図書館リニューアルプラン 2011-2015 一変革期に対応する東京学芸大学附属図書館の発展を目指して」を策定
4月	機関リポジトリの運用管理業務を情報基盤課から学術情報課へ移管するために組織再編を行い「学術企画係」を編入 朝日新聞記事DB「聞蔵」を「聞蔵II」に切替
7月	「西村文庫」(美術教育関係コレクション)の設置、展示会を開催
8月	毎日新聞記事DB「毎日Newsパック」正式サービス開始
10月	図書館資料、電子ジャーナル、データベースを活用したレポート作成の指導助言を補助するため、本学大学院生による「学習サポータ」の実施を開始
平成24年3月	図書館システム(情報処理センター情報処理システムのサブシステムとして)を更新、学術機関リポジトリも更新の対象として含めた 情報処理授業支援を中止し、オーダーメイド講習会を開始 旧用務員室を児童書コーナー(ミニ学校図書館)へ改修
4月	大学史資料室を設置 明治初期教科書・往来物・教育関連資料等1,336点をデジタルアーカイブ公開
6月	データベースの見直しを行い「Ulrich's Web.com」の次年度以降契約中止決定
8月	「Web OYA・bunko」の正式サービス開始
12月	リンクリゾルバの導入
平成25年7月	「学術認証フェデレーション(学認: GakuNin)」への参加により、GakuNin対応の電子ジャーナル、データベースが学外から利用可能に
平成26年5月	附属図書館改修工事に伴う図書・什器移動のための臨時閉館(5月17日～6月1日)
6月	附属図書館改修工事開始
9月	データベースの見直しを行い「Australian Education Index」、「British Education Index」の次年度以降契約を中止決定 附属図書館改修工事に伴う図書・什器移動のための臨時閉館(9月23日～10

	月 7 日)
12 月	附属図書館改修工事に伴う図書・什器移動のための臨時閉館(12 月 17 日～1 月 8 日,10 日)
平成 27 年 3 月	附属図書館改修工事完了 リニューアルオープン準備のための臨時閉館(3 月 28 日～4 月 26 日)
4 月	学術情報委員会の下に「電子ジャーナル等検討ワーキンググループ」を設置し、契約見直しを行う 「Education Research Complete」を「Education Source」に切替 海外新聞DB「Newspaper Source Plus」正式サービス開始 入館ゲートの導入 附属図書館リニューアル・プレオープン(4 月 27 日)
5 月	附属図書館リニューアルオープン(5 月 11 日通常開館開始, 5 月 19 日式典挙行)
7 月	附属小金井中学校生徒の職場体験学習受け入れ(7/14(火)～7/16(木)) データベースの見直しを行い「Web OYA-bunko」, 「毎日 News パック」, 「Newspaper Source Plus」, 「Linguistics and Language Behavior Abstracts」の次年度以降契約を中止決定
9 月	「学生協働ワークショップ in 東京 2015 ～大学図書館における学生協働の拡がり～」(於: 早稲田大学 平成 27 年 9 月 15 日(水))に学習サポータ自らが積極的に参加して、取り組みを発表
11 月	「全学利用の電子ジャーナル・パッケージ及びデータベースに関するニーズ調査」を実施
平成 28 年 1 月	第 3 期中期目標・中期計画期間における附属図書館の使命と目標, 取り組みの策定
4 月	土日祝日開館業務を外部委託にて実施開始 授業期の閉館時間を 22 時から 21 時 30 分に変更
8 月	附属学校の学校図書館を使った授業事例の展示を開始
10 月	古本募金を開始
平成 29 年 1 月	電子ジャーナル・パッケージの「American Chemical Society」, 「Cambridge Journals Online」, 「Oxford Journals」, 「SpringerLink」の契約を中止
3 月	図書館システム, 学術機関リポジトリ(情報処理センター情報処理システムのサブシステムとして)を更新
10 月～11 月	図書館内での助け合い「One Action!」呼びかけポスターを作成 カウンター前に視覚障がい者用誘導マットを導入。優先席の設置 『図書館の障がい者支援』ミニ報告会を実施
11 月	自主ゼミ等の授業外学習に関する調査を実施 「Terakoya☆ commons」構想について
12 月	図書館キャラクターを学内公募
平成 30 年 1 月	電子ジャーナル・パッケージの『Wiley Online Library』の契約内容を変更(「購読誌+Full コレクション」から「購読誌+STM コレクション」にダウングレード)
3 月	学術情報委員会の下に設けられた図書館キャラクター審査委員会において、図書館キャラクターが「まなぶんぶん」に決定 電子ジャーナル・パッケージの「PsycARTICLES」の契約を中止(代替として平成 30 年 4 月より「Psychology & Behavioral Sciences Collection」の導入を決定)
10 月	図書館総合展のポスターセッション及びキャラクターグランプリに参加。ポスターセッションが出展者賞, キャラクターグランプリで「まなぶんぶん」が会場賞を受賞

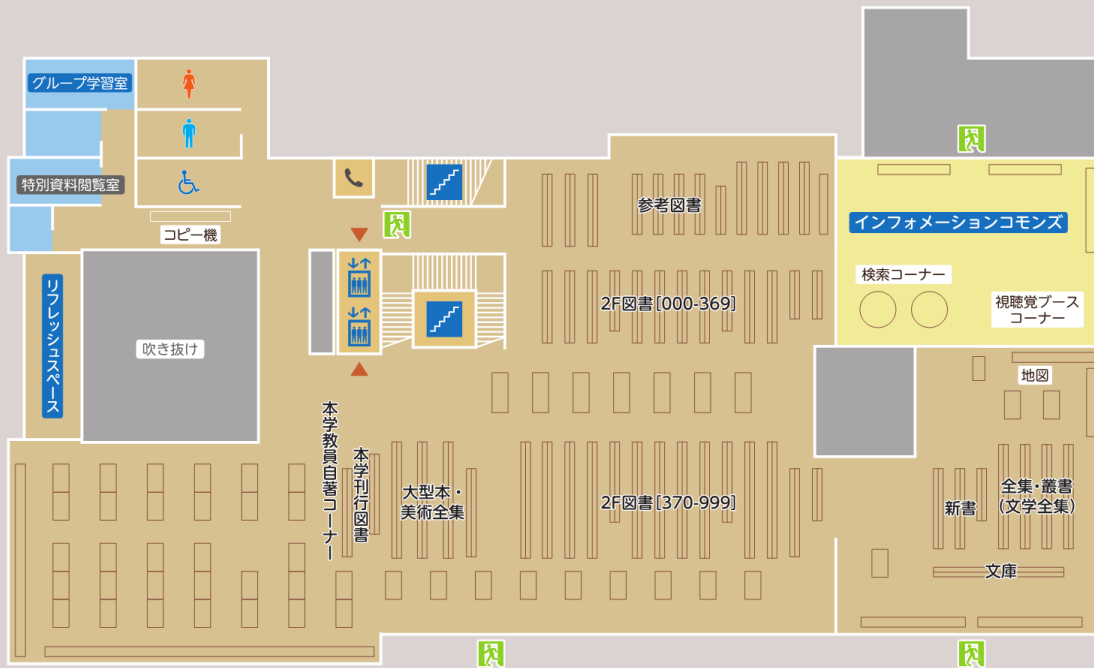
	谷川俊太郎氏から合唱楽譜寄贈の受入れを決定。文庫《声のオーロラ》と命名
平成 31 年 1 月	国立国会図書館・図書館向けデジタル化資料送信サービス提供開始
令和元(平成 31)年 2 月～5 月	附属図書館の増築に伴う「図書館における学習環境改善のための調査」実施
10 月	公式 Twitter (2023 年 7 月から X に名称変更) 運用開始
11 月	谷川俊太郎合唱コレクション《声のオーロラ》 オープニングセレモニー
12 月	活動記録を主とした広報誌として『図書館かわらばん』をリニューアル刊行
令和 2 年 1 月	図書館増築工事着工 電子ジャーナル・パッケージの『Wiley Online Library』の契約を中止
3 月	新型コロナウイルス感染予防のための諸対策を実施
4 月	学術情報委員会が学系長を委員とした学術情報会議に改組 デジタルアーカイブにて公開している画像データの利用促進を図るため、無償・無許諾での利用を可能とする、「東京学芸大学附属図書館におけるインターネット上で公開するデジタルデータの複写等利用要項」を制定
4 月～6 月	新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館 (4 月 9 日～6 月 1 日)
6 月	学芸大デジタル書架ギャラリーを公開
10 月	国文学研究資料館と覚書を締結。日本語の歴史的典籍データベース構築に参加。
12 月	学芸大デジタル書架ギャラリーが電子出版アワード 2020「エクセレント・サービス賞」及び LOD チャレンジ 2020「教育 LOD 賞」を受賞
令和 3 年 1 月	本学デジタルアーカイブ「学びと遊びの歴史」が「みんなで翻刻」に参加
3 月	新 Web ページ公開 (3 月 25 日～) 教育系サブジェクトリポジトリポータル提供終了(主題情報付与は継続)
5 月	図書館・教職大学院棟の増築工事完了
6 月	新ラーニングコモンズ利用開始 学術機関リポジトリを新システム (JAIRO Cloud) に更新
12 月	地下書庫電動集密書架設置工事・資料配置作業終了
令和 4 年 1 月	附属図書館リニューアルオープン (1 月 11 日式典挙行) 1 階に学校図書館コーナーを設置
3 月	図書館システム、デジタルアーカイブシステム(ICT センター情報処理システムのサブシステムとして)を更新
4 月	デジタル教科書コーナーの設置およびデジタル教科書閲覧用 PC の貸出開始
5 月	東京学芸大学教育コンテンツアーカイブを公開
11 月	「東京学芸大学デジタル教科書・教材に関する協定書」を教科書発行者 4 社と締結
令和 5 年 3 月	「E-TOPIA : 教員を目指す学芸大生のためのページ」を公開 「国立大学法人東京学芸大学オープンアクセス方針」を制定
9 月	東京学芸大学附属図書館と Explayground 推進機構 MOL の活動が Library of the Year 2023「優秀賞」を受賞
令和 6 年 1 月	学生・教職員の表現の場として、館内展示棚の貸出を開始
3 月	「E-TOPIA : 教育支援者を目指す学芸大生のためのページ」を公開

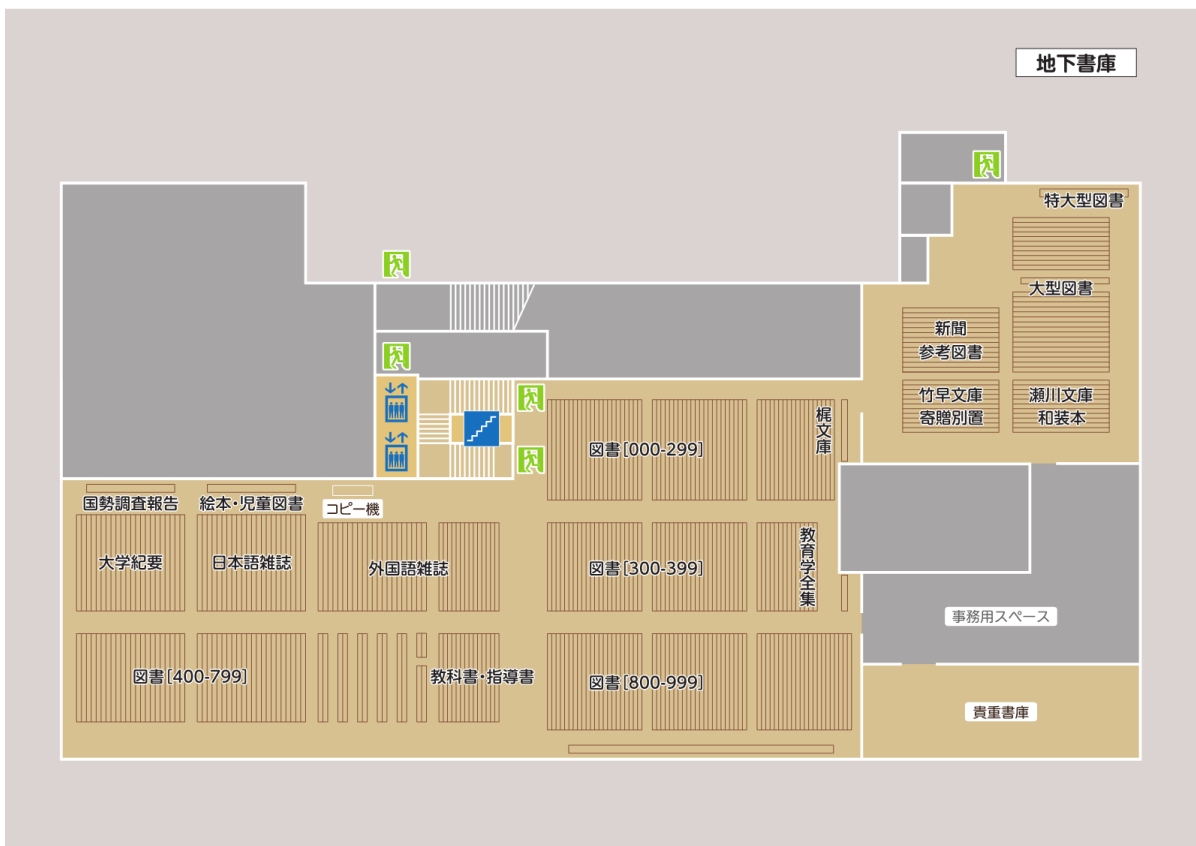
平面図

1 階



2 階





東京学芸大学附属図書館概要 2024（令和 6 年度）

発行日：令和 6 年 9 月 17 日

編集発行：東京学芸大学附属図書館

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4 - 1 - 1

<https://lib.u-gakugei.ac.jp/>